

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 2 2 回相模原市観光振興審議会		
事務局 (担当課)	市長公室 観光政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 3 6 (直通)		
開催日時	令和 7 年 1 月 3 1 日(金) 午前 1 0 時から 1 1 時 4 0 分まで		
開催場所	相模原市民会館 3 階 第 1 中会議室		
出席者	委員	7 人	
	その他	-	
	事務局	8 人 (有馬 SDGs・シビックプライド推進担当部長ほか 7 人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開会 2 議題 令和 6 年度 of 取組結果及び令和 7 年度 of 取組予定について 3 その他 4 閉会		

審 議 経 過

1 開会

2 議題：令和6年度の取組結果及び令和7年度の取組予定について

内容について事務局が説明を行った。委員の主な意見は次のとおり。

- ワークেশンの動画や「散歩の達人」を見て、相模原市には魅力的なものが多くあると改めて感じた。リニアを契機として、リニア新駅の工事現場で開催されたイベントのように、今しかできないことや見られないものを活用していけば、更に相模原市に対して好奇心を持たれる方が増えていくのではないかと。(根本委員)
- ワークेशनについて、コロナが落ち着いた現在では、仕事と遊びを切り離して考えている人が増えてきており、テレワークの需要については改めて検討する必要があると思う。(吉村副会長)
 - ⇒ 相模原市が目指すワークेशनは、チームビルディング、企業研修の場の提供をイメージしており、都心から1時間程度の場所に豊かな自然があることを強みとし、移動時間を短縮して研修時間に回せることもできるため、企業への働き掛けのほか、市内で場の提供やコンテンツ開発できる事業者を対象に補助メニューを用意している。(鈴木課長)
 - ⇒ コロナ禍以降、社内研修などをWEBで行い、自宅にて1日程度で終わってしまうような状況があることから、社員同士のつながりに寄与していないという声もある。昼間は勉強し、夜間は体験を通じて絆を深める企業研修の場を提供する取組はよいと思う。(櫛見委員)
 - ⇒ 一般的なワークेशनの考え方においても、1・2泊など短期間の滞在ではなく5日以上長期型滞在であれば、1日程度仕事をすることも考えられる。長期に対応できる形があるとよい。(中嶋委員)
- ワークेशनの補助内容、令和7年度の取組について伺う。(野崎委員)
 - ⇒ 補助内容と補助率については、Wi-Fiやプロジェクタ・スクリーンの購入など施設整備に対する補助率は2/3、コンテンツ整備に対する補助は3/4で、合わせて75万円までの補助としている。令和7年度は補助制度の継続と、今年度に制作した特設ホームページの更新と情報発信を進める予定である。(小峯主査)
- ブレジャー推進事業のターゲットは誰を想定されているか。(中嶋委員)
 - ⇒ 相模原市に出張等で見えられた方、首都圏近郊から来た方に夜間楽しんでいただけるように目指している。(鈴木課長)

- ⇒ 冬は、キャンプ需要は落ち込む時期であるが、イルミネーションやライトアップ、星空観察を目的とする方もおり、一定の需要があると思われる。(鈴木委員)
- ⇒ 藤野地区は観光資源が多く、藤野商工会青年部が駅前周辺にランタンを飾った50周年記念事業を計画している。こういったことも誘客につながればと思う。(野崎委員)
- ⇒ 最近の若い人はスマートフォンで情報収集し、遠出でも出向く傾向があるようで、若い人の求めているものや感覚をつかむことも重要である。(根本委員)

○ 山中湖では湖を周回できるサイクルロードが整っており、レストランやモニュメント毎にアルミ製のサイクルラックが設置されている。また、オリンピックの周回コースにもなったため、日本国内・インバウンドとも需要があり、高級な自転車の盗難防止も含めた安全な環境が担保されていると思う。(鈴木委員)

- ⇒ インバウンドには、里山でのサイクリングも人気があり、日本の原風景の中をガイドの説明を聞きながら楽しんでいるようであり、そのためのガイド養成は重要な要素である。飛騨が有名であるが、動画にあったように相模原市でも十分に体験できると感じた。来年度は3年目となるが、主体となる地域が自走できるように取り組んでほしい。(梅川会長)

○ 中央区で行われた「上溝のだるま市」には外国人が多く、外国人がSNS投稿して広まったものと感じた。外国人市民等による観光情報発信事業については、今年度の取組はあったのか。(中嶋委員)

- ⇒ 今年度に事業を検討し、来年度から試行的に行うこととしている。(鈴木課長)
- ⇒ アンバサダーの認定基準はあるか。(梅川会長)
- ⇒ 将来的には、フォロワー数やSNSでの発信経験などと考えるが、試行的に実施するため、当初は興味のある方と考えている。(鈴木課長)

○ 情報提供になるが、市営の上大島キャンプ場で実施したアンケート調査では、「キャンプ場のほかに、他の場所へ行きたい」と答えた方が22%しかいなかった。キャンプ場だけでなく市内を周遊したいと思ってもらえるよう取り組んでいかなければならない。また、来訪者については、市外からの来訪者が68%であり、コロナ前の平成30年度から15%増えている。キャンプ場利用者自体もコロナ前から30%増えていることから、市外へのPRにつながっていると思う。継続して磨き上げに取り組んでいきたいと考えている。(吉村副会長)

3 その他

○ 次回は7月頃の予定である。会議の議事録は事務局が作成し、各委員に確認いた

だいた後、会長に確認をお願いする。(黒滝主査)

4 閉会

第22回相模原市観光振興審議会 委員名簿

区 分	氏 名	所属団体等		備考	出欠席
		名称	役職等		
学識経験者	梅川 智也	國學院大學	教授	審議会 会長	出席
	小泉 京美	相模女子大学	教授		欠席
公募委員	八木 泰子	公募委員	—		欠席
関連団体	野崎 修	津久井地域商工会連絡協 議会 藤野商工会	事務局長		出席
	根本 敏子	(公社)相模原市観光協会	副代表理事		出席
	吉村 幸弘	大島観光協会	会長	審議会 副会長	出席
民間事業者	鈴木 康弘	相模湖リゾート (株)	代表取締役 社長		出席
	櫛見 大	東日本旅客鉄道 (株) 橋本駅	駅長		出席
	中嶋 博茂	(株) J T B 相模原支店	支店長		出席